

絵本の読み聞かせについて

1. 絵本とは

- ・ 大人が子どもに読んであげる本
- ・ 総合芸術作品（絵・ことば・判型・装丁）
『ちいさいおうち』（バージニア・リー・バートン絵と文 石井桃子訳 岩波書店 1965）
- ・ あかちゃん絵本、物語絵本、昔話絵本、知識の絵本、科学絵本、のりもの絵本

2. 読み聞かせがもたらすもの

① ことばを豊かにする

「聞く」と「読む」こと

② 想像力を養う・・・生きる力を養う

「絵を読むときの視覚による物語体験」・・・**主体的**に見る習慣と能力が身につく
テレビ・アニメ・・・**受身**の視覚体験
「行きて帰りし物語」

③ 読み手と聞き手が共に楽しみ喜びを共有できる

* 乳幼児と絵本について

乳幼児に絵本を読み聞かせ、お話をわからせることが主の目的ではない。
絵本を通して親子がふれあい、ことばかけをする。

3. 絵本を選ぶ

① 良い絵本とは

- * 生命に対する思いと生きる希望（全ての生命は自分の生命と同じ）を与えてくれる
- * 実体を伴った力強い日本語で書かれ、暖かく誠実な絵であること。
- * 文と絵がそれぞれの持ち味や特質を生かしきり、しかも全体としての調和を保って、物語の世界を語り伝えていること。
- * 30年以上読み継がれてきたもの。

② 昔話絵本について・・・安易に結末を変えているものは選ばない。きちんと再話されたものを選ぶ。

③ 対象年齢にあわせる・・・良書より適書を。何歳からはあるが何歳までではない。

④ リストの活用

『私たちの選んだ子どもの本』（東京子ども図書館編・発行 1978）

『松居直のすすめる50の絵本』（松居直著 教文館 2008）

4. 読み聞かせをするために

①何度も読んで内容をしっかり自分の中に刻み込んでおく。

*表紙・見返し・扉・本文・見返し・裏表紙の見せ方や間のとりかたを考えておく。

「読み手はその絵本をどれほど精確に読みとり、またその物語の世界を読み手自身がいか
にいきいきと心に思い描き、楽しんでいるかが問われる。語り手の読みとり方は、
その声と表情に微妙に反映して、聴き手の読みとり方に大きな影響を与える」

（『絵本のよろこび』より）

②「素直に 飾り気無く 心を込めて」読む・・・物語の世界が、聞いた子の心に残る
（『えほんのせかいこどものせかい』より）

大げさな声色や顔つきは、読み手に気をとられお話を楽しむ妨げになる

③場の設定、持ち方、めくり方、終わり方

④絵本を楽しむ（自己研鑽・勉強会）

絵のよさも、文章の美しさも、物語の豊かさも、不断に学びつづけない限り、
子どもたちに伝えることなどできないのです。子どもに負けずに、たっぷりと
精神の冒険を企ててください。（齊藤惇夫講演より）

⑤心のなかに100冊の子どもの本の図書館をつくる

<参考資料>

『絵本のよろこび』（松居直著 日本放送出版会 2003）

『幼い子の文学』（瀬田貞二著 中央公論社 1980）

『読む力は生きる力』（脇 明子著 岩波書店 2005）

『昔話絵本を考える』（松岡享子著 日本エディタースクール出版部1985）

『えほんのせかいこどものせかい』（松岡享子著日本エディタースクール出版部1987）

（守山市立図書館 三田村悦子）